

(対象事業：特別展「わたしたちのまち・黍田」)

事業名：特別展「わたしたちのまち・黍田」

事業者名：

連携事業館名：小野市立好古館

住所：兵庫県小野市西本町 4 7 7

TEL：0794-63-3390

FAX：0794-63-3462

HPアドレス：<http://www.city.ono.hyogo.jp/~kokokan/>



### ①施設概要

小野市立好古館は、小野市市制40周年を記念して計画され、平成2年に開館しました。小野市を中心に北播磨地域の歴史民俗資料の保存と公開を目的とし、常設展示のほか特別展や企画展、各種講演会や講座、音楽会なども開催し、市民文化の中核施設となっている。

### ②事業の意図目的

郷土の歴史を住民（特に小学生・中学生）自らが調査し自分たちの手で展示することにより、郷土への誇りを持ち、住民による町おこしの実現を図る。

### ③事業概要

小野市内のひとつの町（自治会）をとりあげ、その町の将来を担う小学生、中学生が自分たちの住む町の歴史を掘り起こし、その成果をまとめ、町に残された歴史資料民俗資料を住民自らの手で、町の公民館（自治会館・集会所）に展示した。

また、かんれん行事として、町の区長（自治会長）や役員が講師役となり、地元の子ども達や他地域からの参加者に町の歴史的な場所を案内して歩くという歴史散策と町の江戸時代の歴史についての講演会を開催した。

### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（展示図録、）  
作成した報告書等

ビデオ（ ）  
冊子（わたしたちの調べた黍田町 ）  
その他（ ）

### ⑤参加者状況

参加者人数 延べ 1503 人  
内 訳

調査参加者 のべ120名 特別展展示見学者 1173名  
講演会 130名 歴史散策参加者 80名

## (1) 事業の実施状況について

当企画では、過去2回と同様、何よりも住民の参加が不可欠であると考え、自治会役員全員の賛同を得て開催を決定した。

また、役員会の中で、展示会場を黍田の会館で行ってはどうかとの意見が出たため、地元の施設を利用したの展示会ということに決定した。

なお、展示にあたっては、出品資料は役員会と共同の決定し、若い世代に何を伝えたいのかを考えてもらった。それと同時に図録中の民俗行事や信仰に関する部分は役員に執筆してもらった。

開催までの日程は以下のとおりであった。6月からの開催を計画していたため、前年から1年をかけての準備期間となった。

- |        |  |
|--------|--|
| 5月 8日  | 黍田町区長に地域展の開催を提案する。   |
| 6月12日  | 黍田町の役員会に出席し、地域展の主旨説明を行なう。  |
| 6月25日  | 黍田町区長より正式に開催の承諾がある。  |
| 7月12日  | 黍田町役員会で実施方法の打合せを行なう。   |
| 7月25日  | 黍田町で小学生、中学生とその保護者、小学校、中学校校長、地区担当教諭に集ってもらい、事業の概要等を説明。<br>その日のうちに小学生、中学生の調査するテーマと担当する児童・生徒を決定する。                     |
| 7月30日  | 黍田町黍田会館で役員と好古館による黍田村文書の調査を行なう。   |
| 8月 3日  | 黍田町黍田会館で役員と好古館による黍田村文書の第2回目の調査を行なう。  |
| 8月 5日  | 第1回目の小学生、中学生による調査を行なう。<br>参加者 小学生中学生30名、役員10名、住民5名。  |
| 8月11日  | 小学生による作品のまとめ作業が行なわれる。<br>参加者 小学生20名、役員10名  |
| 9月 5日  | 小学校で調査成果の発表を行なう。   |
| 10月13日 | 小学生、中学生の作品の最終点検作業を行なう。   |
| 1月 3日  | 大歳神社のハナフリ、毘沙門堂のゴウツキ、釈迦堂参りの調査。  |
| 1月25日  | 春当の調査。   |
| 4月 4日  | 黍田町で特別展の最終打合せを行なう。   |
| 6月19日  | 黍田会館で特別展「わたしたちのまち・黍田」開会。<br>開会式次第<br>開会<br>市長あいさつ<br>黍田町区長あいさつ<br>来賓紹介（市議会議員、出品者等）<br>テープカット（区長、市長、小中学生代表ほか）<br>閉会 |

### 展示会場案内

参加人数は総勢で115名

小学生30名、中学生10名、保護者一般住民30名、役員20名、  
学校関係5名、その他20名

7月 3日 午前に「黍田町の歴史散策」開催（参加者80名）。

午後に講演会「江戸時代の黍田村」講師 今井 修平氏（神戸女子大学教授）を開催（参加者130名）。

7月19日 特別展「わたしたちのまち・黍田」終了

入館者数1173名

### （2）地域との連携について

過去2回の企画展でも同じであったが、当企画では、何よりも住民の参加が不可欠である。そのため、特別展の開催にあたっては、自治会役員全員の賛同を得ることが最低条件と考えている。そのため自治会の役員会に諮って、開催の決定を行なってもらった。

また、当企画では、町の将来を担う小学生・中学生に自分たちの住む地域の事を掘り下げてもらうことが、郷土への誇りを持つことにつながり、将来のまちづくりへつながっていくと考えているため、小学生、中学生の調査を主体とし、調査で外出する際には、保護者や役員が付き添ってもらうようにした。これは児童・生徒の安全確保のためと調査の補助のためであったが、三世代交流の促進という思わぬ成果をあげた。なお、小学生・中学生の調査は最後に模造紙にまとめてもらい、企画展での展示資料の中心となった。

### （3）成果物について

前述のとおり、小学生、中学生の調査成果は模造紙にまとめたもので、企画展での展示資料の中心であった。その模造紙は特別展終了後は黍田町で保管され、保存されていくこととなった。

また、その小学生、中学生のまとめたものは、そのまま写真版にして、簡単な展示までの経緯や調査に参加した児童、生徒の感想文とともに『わたしたちの調べた黍田町』という冊子にまとめた。この冊子は郷土学習のひとつの参考例としてみてもらうため、黍田町の児童、生徒の通う小野市立来住小学校と小野市立小野南中学校の全児童、生徒に配布した。

一方、特別展の図録は、児童、生徒の調査では触れられなかったテーマを中心に編集し、地元の歴史を伝えるため黍田町の各戸に『わたしたちの調べた黍田町』とともに配布した。

また、会期中希望者には、2冊セットで無償配布し、特別展終了後は、交換図書として、関係機関等に送付した。

#### (4) 参加者の反応

##### 調査

調査活動は、夏休み中に行なったため、特に中学生は、部活動との日程の問題から参加が難しい面もあった。しかし、中には忙しい時期にもかかわらず、積極的に参加してくれる生徒もあった。また、保護者や自治会役員の方も子供の調査に非常に熱心で、調査日以外にも児童・生徒を引率して、調査へ協力してもらえた。

調査の内容的なものでは、特に児童・生徒・保護者ともに自分たちの住んでいる町にある普段何気無く見ているものでも新しい発見があったり、今まで気付かなかったものが意外と多くあったことに驚いていたようだ。

##### 展示

展示では、壁面のほとんどを小学生、中学生の調査作品の展示に充て、展示資料は町の歴史がたどれるように時代別に配置し、展示室中央には明治時代の大きな絵図面やお祭の時に使用していた馬の鞍を配置した。

また、第二次大戦中には町内に軍需工場があり戦闘機の翼を作っていたことを紹介したが、若い世代の方は知らないことが多く、新しい発見に感心していたようだった。

黍田町の住民・出身者には大変好評だっただけでなく、かつてここにあった綿布工場で働いていた方や軍需工場に動員された方なども足を運んでもらえた。

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

今回の特別展では、特に地元の施設を利用したことにより住民が気軽に足を運んでもらえたという点が挙げられる。地方では、博物館や資料館というとまだまだ敷居が高いイメージがあり、よほどのことがないと足が向かないというのが現状である。しかし、今回の黍田展の場合、人口501人（平成12年の国勢調査のデータ）の倍以上の方が、この展示のためだけに足を運んでもらった計算になり、その分博物館や資料館を身近に感じてもらえる機会になったのではないかと考えている。

また、今回の黍田展の場合は、地域のコミュニティの再構築の場になったと考えている。今回の展示をきっかけに、明治時代から昭和前期にかけて鉄道の施設や綿布工場の誘致など黍田の発展のため努力した人物が黍田町内で大きく見直され、銅像の復元の話が持ち上がっている。また、それと同時に、これからの町づくりを自分たちで考えていかなければならないという気運も高まっている。